

## パーク・アンド・ライド (P&R) 促進手段としての交通 IC カードとの提携実例とその効果 A tie-up example with the chip card as the park and ride (P&R) promotion means and the effect

パーク 24(株) 正会員 ○大島 翼

### 1. はじめに

現在わが国において、自動車交通は急激に増加しており、都心への自動車の過密化が起こっている。これは交通渋滞を起し、経済的な損失やCO<sub>2</sub>排出といった環境問題等を招いている。その軽減のために、地方自治体や鉄道会社では、パーク・アンド・ライド（以下、P&R）の促進を行っている。しかし、P&R が受け入れられにくい大きな問題点として、交通費の負担増が挙げられる。そこで弊社では、鉄道会社の交通 IC カードと提携し、P&R の駐車料金の割引システムを設定している。

本研究では、弊社の時間貸駐車場タイムズと鉄道会社の交通 IC カード駐車場割引システム共同実験の実例を挙げ、P&R 促進の効果検証・現状の分析を行うことにより、今後の更なる促進を目的とする。

### 2. タイムズと鉄道会社による共同実験内容

鉄道の利用促進を図り、中心地の渋滞緩和に寄与することを目的に、06 年 3 月のタイムズのオープン日から、鉄道会社とともに駐車料金の割引システムを導入した。

当交通 IC カードは鉄道会社が発行している、電車・バス乗車・電子マネー機能を備える交通 IC カードである。弊社の特定タイムズで利用が可能である。

駐車料金の割引システムの流れについて以下に示す。

- ① タイムズに駐車する際、駐車券の発券ボタンを押す代わりに、発券機の所定の位置に交通 IC カードを当てる
- ② P&R 用の駐車券が発券される
- ③ 交通 IC カードを使い、最寄り駅から電車に乗る
- ④ 出発駅に帰ってきた際、タイムズの精算機に駐車券を投入する
- ⑤ 割引処理した料金が表示される（200 円割引等）

### 3. 調査方法

弊社の「TONIC」という独自のシステムを用い、以下のことを分析した。交通 IC カードと連動しているタイムズについて、交通 IC カードでの駐車場割引利用者（以下、P&R 利用者）において、以下の 2 項目で 07 年

3 月～08 年 3 月まで 1 ヶ月ごとに集計した。

- ① 利用者の人数
- ② 利用者の住居と駅までの距離

### 4. P&R 利用者の実態

#### (1) P&R 利用者の人数

該当タイムズでの、利用台数データを図 1 及び図 2 に示した。図 1 は、08 年 3 月の平日、図 2 は 08 年 3 月の土休日である。また、平日の 6 時～8 時の利用者の内、交通 IC カード利用の方の割合を図 3 に示している。図 1 より、午前 6 時～8 時までの利用者が全体の 62.1% を占めていることがわかる。また、図 2 の土休日は午前 6 時～8 時が最も多いが、その他の時間帯と差は見られない。これより、該当タイムズは、P&R 利用者が最も多いことが言える。また、交通 IC カードの普及は全体の 3 割に及んでいる。

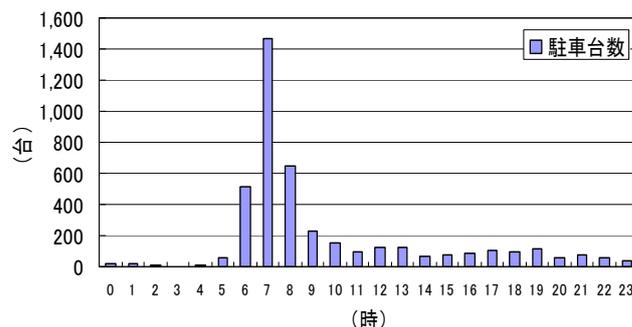


図 1 08 年 3 月の平日駐車台数

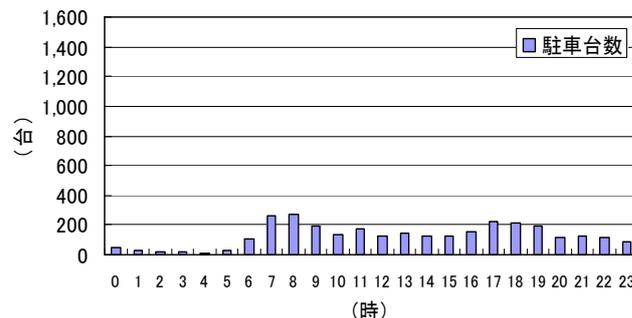


図 2 08 年 3 月の土休日駐車台数

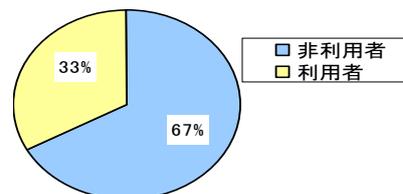


図 3 交通 IC カード利用・非利用者割合

## (2) 交通 IC カード利用者による人数増減

該当タイムズにおける交通 IC カード利用者の人数変動を図4に示した。データは07年3月の利用人数を100%とし、08年1月、08年2月、08年3月をあわせて4ヶ月分の推移を表している。

07年3月と08年3月の比較では、78%増となっていることから、増加傾向にあることがわかる。そのうち、07年3月から08年2月までは、緩やかな増加を示し、08年2月から08年3月にかけては増加率が上がっている。この増加の要因は、該当タイムズでのP&R利用を促進するために、駐車料金割引率を上げる施策を実施したためである。

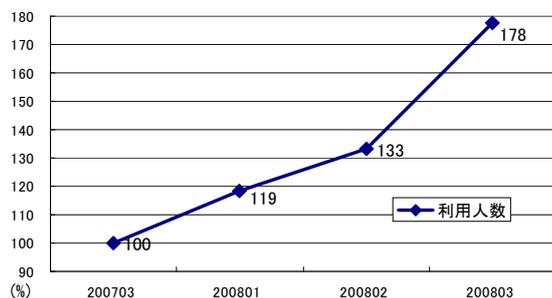


図4 交通 IC カード利用者による人数増減

## (3) 交通 IC カード利用者の自宅からの距離

07年3月と08年3月の交通 IC カード利用者を対象に自宅と該当タイムズとの距離を表1で示した。このデータは月に8回以上、つまり週に2回以上の利用者のみ抽出している。また、表1①②では最多利用者距離として、該当タイムズの利用が多い2人の利用者の商圏距離である。②の利用者は同一であるため、07年、08年共に利用頻度が非常に高いことは間違いない。また、自宅と該当タイムズの平均距離は07年3月が3,410mであったのに対し、08年3月は2,356mと1,054m利商圏が減少していることがわかった。

これより、該当タイムズから3,000m離れた、歩くのには30分以上かかってしまう距離圏からの利用者が多いということがわかった。

表1 月8回以上のP&R利用者の駅からの距離

	2007年3月	2008年3月
平均距離(m)	3,410	2,356
最長距離(m)	6,665	4,227
最多利用者	① 3,719	① 2,457
距離(m)	② 446	② 446

## 5. まとめ

弊社の時間貸駐車場タイムズと鉄道会社の交通 IC カード駐車場割引システム共同実験本研究によって以下の知見を得ることができた。

- ① 該当タイムズでの、平日の6時～8時の利用者が最も多く、全体の利用者の62.1%を占めていることがわかった。また、交通 IC カードの普及は全体の33%に及んでいる。
- ② 07年3月から08年3月までに、月ごとの利用人数が78%増加している。また、08年2月～08年3月の1ヶ月間で45%増加していることから、弊社が実施したP&R利用者への駐車料金割引率を上げる施策が有効であることがわかった。
- ③ 自宅と該当タイムズの平均距離は07年3月が3,410mであったのに対し、08年3月は2,356mと1,054m利商圏が減少していることがわかった。

該当タイムズから3,000m離れた、歩くのには30分以上かかってしまう距離圏からの利用者が多いということがわかった。

## 6. 今後の課題

交通 IC カード内に記録された鉄道の乗車履歴とタイムズを精算機システムを連動させ、自動的に駐車料金を優待料金にするため、鉄道と車をよりスムーズにつなぐパークアンドライドなど、ドライバーに利便性の高い駐車場サービスを提供すると共に、交通機関とのパークアンドライドを展開することで、交通渋滞の緩和や環境問題に積極的に貢献していきたいと思っております。